
simo-//Akkord:Bsusvier-**フォルテシモアコルトビーサスフィーア**

コラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

fortissimo - / Akkord : Bsusvier -
フォルテシモアコルトビーサスファイア

【Nコード】

N8352M

【作者名】

コラス

【あらすじ】

詳しくはこのサイトで <http://lacryma.info/fortissimo/top.php>

「ハジマリ」

「もうすぐ帰省するからな」

「ホント？兄さん私待つてるからね」

「ああ、紗雪ありがとうな。それじゃ」

俺は芳乃零二。今義妹の黒羽紗雪と故郷月読島に帰省するため待ち合わせの電話をしていた。いい思い出があるわけではないむしろ良くない思い出の方が多い。月読島は「マホウツカイ」と呼ばれる者がいるといわれている伝説がある。俺と紗雪の両親はこのマホウツカイをよめぐる戦争に巻き込まれ亡くなった……。帰省

「兄さんお帰りなさい」

「紗雪久しぶりだな」

「零二帰ってきたのか」

「皇樹じゃないかほんと久しぶりだ」

コイツは皇樹龍一俺の親友だ。

「私もいるよ」

「誰でしたっけ？」

「私だよーなぎさだよー」

「あつ・・鈴白か。や本当に誰か分かんなかった」

鈴白なぎさは俺と龍一の幼馴染で龍一と同じ剣道部のメンバーだ。

「もう！」

「ごめんごめん」

「！スマン零二急用ができた。オイ鈴白いくぞ」

「あつ、うん」

「なんだ？」

大慌てで龍一達は走り去っていった。

「私達は墓参りいこ」

「そうだな」

「墓参りした後」

「兄さんうちへ帰ろう」

「悪い紗雪先に帰っててくれ。俺は行きたい所がある」

「私もついていこうか？」

「悪いが一人で行きたいんだ」

「そう・・・じゃあね」

残念そうに紗雪はうつむいたがすぐに普段に戻る。

そして俺は一番の思い出があるある場所へと向かう。それは・・・

「変わらないなココだけは」

この島の中央、シンボル大きな桜の木。

「なにかココであつたような・・・」

俺はなにかひつかかった気がしてならなく浸って見上げていると・・・

・

「お前・・・マホウツカイだな？」

「はっ！？誰だ！？」

木上に影が、何者かがいた。

「俺か？俺様は轟木鋼様だあー！世露死苦！ヒヤッハハー！覚悟し

やがれやあー！きやがれ俺様のマホウ、エッケザックスウー！」

ザドン！

「うわっ！？危ないじゃないか！」

マホウだつて！？ほんとうに存在してたのか。

「オラオラオラ！どうしたどうしたどうしたあー！」

「うわあー！」

ココで・・・俺は死ぬのかよ・・・もう駄目かと思ったその時・・・

・

シュル！バチン！

「んあつつ！？俺様の攻撃を受け止めやがった！？」

「！？」

目の前に女性が鞭のようなロープを持って奴の攻撃を受け止めていた。

「デメエ・・・ナニモンだあ？」

「あなたなんか名乗りたくないわ」

「女だからってナメてつと!」

「そんなにうたれたいのね。零二早く覚醒しなさい!」

「えっ!?!」

なんで俺の名前を知っているんだ!?

「戦闘中にごちゃごちゃ言ってるじゃねええええっ!んなこたあ知ったこつちゃねんだよ、ボケがつ!」

「早く!これ以上は抑え切れない」

「そんなこと言われたってどうすれば・・・」

「レイジ・・・私を呼んで」

突然頭の中に声が響いてきた。この感覚、この声、・・・俺は・・・知っている!

「サクラー!」

「なにー!?!」

「そうよ・・・」

桜色の閃光に包まれその子は姿を現す。

「人型戦略破壊魔法兵器だとおー!?!だが必いー殺うー」すんげえ強ええ重力「へグラビトンプレス」!!

「うわ!」

重力コントロールか!

「大丈夫だよレイジは私が守ってあげるから・・・」穢れなき桜光の聖剣「ヘレーヴァテイン」!!

「なにー!?!」

「はあっ!」

俺はマホウを使ってみる。

「えっ!?!龍一と鈴白!?!なんで」

「あれ!?!」

なぜか二人が現れた。ということは二人も・・・。

「零二お前もマホウツカイだったのか。俺達はお前のマホウによってココに呼び出されたようだ」

「えっ！？それはどういう・・・」

　　龍一Side

「話は後だ。「パイルバンカーガントレット」装備！「雷光を打ち砕くもの」ハイルアン・グライベル」！！」

　　なぎさSide

「お願い、スウアフルラーメ・・・私に力を貸してっ！ただ、大切な友を守る為に・・・いきます！「黄金色の聖約」ハティルヴィング」！！」

二人の姿が変わる。龍一はファイター、鈴白は女王に。

「チイツ！マホウツカイが一気に4人も出てきやがった・・・プロテクト！」

「うおおー！！」

「はあっー！！」

「いっけえー！！」

「ぐう・・・抑え切れねえか・・・ここはひとまず退散するぜい」
　　その後

「なあ、アンタは一体何者なんだ？」

「私は「13番目」のマホウツカイ、ワルキューレ。覚えていて頂戴」

「あ、待て！」

彼女はほとんど真実を話さずに去っていった。

「バトルロワイヤルの開幕だ」

「そうみたいね・・・」

続

「ハジマリ」(後書き)

新作ゲームをノベル化してみました。本当の本編は違つかもしれないでござ承を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8352m/>

foltissimo-//Akkord:Bsusvier-フォルテシモアコルトビーサスフィーア

2010年11月1日23時58分発行